

法政大学 同窓会会報

社会学部同窓会

第6号

法政大学
発行 社会学部同窓会事務局 (水・金)
住所 〒194-02
東京都町田市相原町4342
☎ 0427-83-2421

ラグビー部、大学日本一!!

第二九回全国大学ラグビー選出権大会決勝

対早稲田戦 一九九三年一月六日

ノーサイド寸前の逆転トライ、残り二分

ラグビー部、全国大会優勝

ワセダを破って、法政のラグビー部が全国優勝をした次の週の始めの数日、多摩キャンパスの学生の溜り場である「社会学部食堂」は湧きに湧いていた。それもそのはず、ラグビー・フットボールのうちの多くが社会学部の学生であり、しかも、もともと華々しく活躍した一年生トリオが「社会学」であった。ラグビー部の部長は社会学部の石川淳志教授であった。まるで社会学部のラグビー部が優勝したような興奮が生じた。応援で熱狂した学生たちは、とくに女子学生を中心に、グラウンドの雰囲気そのまますキャンパスに持ち込んだ。出校したラグビー部の学生たちを取り囲んで、グラウンドでちぎれるほどに振った三角形の小旗にサインを求めた。テレビのスクリーンの前で歓喜した学生たちやスポーツ紙をむさぼり読んだ学生たちも加わって、興奮の渦を巻き起こしていた。生まれて初めてサインをすることにうなづいたラグビー部は大変であった。あわててサインを練習した者もいたと聞く。

一年生トリオが私の政治学の受講生であった。彼らは、他の何人かの部員とともに、ふだんから教室で目立つ存在であった。試合の前に、私は思わず激励の声をかけたりしていた。その関係で、優勝した後、私は、一年生トリオに優勝の感想文を書いたらもう機会をえた。なかなかおもしろい感想文であったので、今回、三人の了解をえて、その一部分を同窓会報にのせ、OBに紹介させてもらうことにした。

快く了解してくれた三人のラグビーと、ご賛同いただいた石川部長に感謝いたします。

同窓会幹事、社会学部教授 高橋 彦博

優勝できた理由

政治学の時間に、「個人を取り巻くのは国家か 中瀬 真広
社会か。社会の発見が大 事だ」という話がありま したが、私の意見は国家 も社会も両方大事だとい

うものです。現在の日本人は、国家と社会の双方に順応していくしかなない状況にあるような気がします。

わがラグビー部が優勝できた要因の中に、この問題と共通することがあります。それは個人を大切にすることです。私は幸いにも一年目にして試合に出させてもらっています。一年生である我々からも意見を聞いてくれると同時に上級生自らが我々に対しプレーをしやすいた環境づくりをしてくれたということがラグビー部にはありました。「団体スポーツに個人はない」と思われるかもしれませんが、個人、個人、の意見、考えが通じ、それが理解され、まとまった時ほど強いものはありません。それを実行して優勝という結果が生まれたと私は思っています。

今の日本の「企業中心社会」なる現状を変えていくには、例えば悪いと思いますが、このようなことが必要だと私は思います。我々もこのよう

考え、体制を忘れず、今年も一戦一戦がんばりたいと思えます。

自惚れないこと

苑田 右二

私は、大阪の啓光学園から法政ラグビー部に入りました。大学選手権には卒業するまでの四年のうち一回でも出られたらいい方だと思っています

た。それが大学選手権に出場し、優勝までしてしまっただけです。

何が良くてここまでできたかというところ、十五人のまとまりがある、どうやら点がとれるかを一人一人が理解している、ラインアウトでのボールの獲得率が高い、そして、何よりも良かったのが身

体を張ったタックルで、今年の法政はこれなしでは勝てなかったと思います。

今年の法政は、シーズン前、ラグビー関係者、各大学からはノーマーカー的存在だったと思います。しかし、今年のメンバーは、そんなことは関係ない(二面につづく)

